



## ビューホット®治療とは

ビューホットによるワキガ・多汗症治療は、治療用に設定されたRF（ラジオ波）を照射する36本の細い針によって、汗のもとであるエクリン腺、臭いのもとであるアポクリン腺の働きを抑える施術です。

## ビューホット治療にかかわるQ&A

ビューホットによるワキガ・多汗症治療はまだ新しい治療法であるため、私たちも日頃の診療で患者さんからいろいろな質問をお受けします。代表的な質問とそれに対する回答をご用意しました。但し、詳細は医師にご相談ください。

### 治療に関して

Q. 切らずに治療ができるのですか？

A. はい、メス不要の施術です。

Q. 実際の治療はどのような治療ですか？

A. 36本の細い針がついたスタンプのような機器で治療します。

Q. 施術中の痛みはありますか？

A. 多少の熱感を感じますが、局所麻酔が推奨されていますので少ない負担でお受けいただけます。

Q. 何歳から治療を受けられますか？

A. 小学校高学年から受けられます（保護者の承諾が必要）。

Q. 若いと再発しますか？

A. 11～30歳までの方は、組織の成長が完全に止まっておらず再発する場合があります。気になったら再治療をお受け下さい。

Q. 他院で別の治療を受けたのですが、再治療は受けられますか？

A. 多くのケースが可能ですが、医師によるカウンセリングの際にご相談下さい。

### 治療後に関して

Q. シャワー入浴は可能ですか？

A. 当日からシャワー入浴は可能ですが、3日ほどは施術部位を強くこすらないようにして下さい。

Q. 通勤・通学は可能ですか？

A. 治療当日から通勤・通学は可能です。

Q. 治療後、スポーツはできますか？

A. 翌日から軽いスポーツは可能ですが、激しいスポーツは2～3日お控え下さい。

Q. 治療後の腫れや痛みはありますか？

A. 腫れや痛みはあまりありませんが、かさぶたや内出血が見られる場合があります。

Q. わき毛はなくなりますか？

A. 脱毛治療ではないので、わき毛に対する影響はほとんどありません。

Q. 術後のケアはどのようにしたら良いでしょうか？

A. 個人差がありますが、中度以上のワキガの場合、毛穴に粘着質の汗が残り細菌によって臭う場合があります。治療後は、1日2回程度消毒することにより、2週間程度で臭いが改善します。

# ビューホット®による ワキガ・多汗症治療

## 切らない・術後の固定がいらぬ

ビューホットによるワキガ・多汗症治療は  
治療用に設定されたRF（ラジオ波）を照射する  
36本の細い針によって  
汗のもとであるエクリン腺、臭いのもとであるアポクリン腺の  
働きを抑える施術です



www.hando-cra.com

## ビューホットによる ワキガ・多汗症治療の特徴

ビューホットによるワキガ・多汗症治療は、RF（ラジオ波）を使って行います。この治療法の特徴は以下の6つが挙げられます。なお、治療効果・経過には個人差があります。

### 1. 短時間施術

本施術時間は20～30分（麻酔時間を含まず）と短いため、時間的拘束が軽減されています。

### 2. ダウンタイムが短い

腫れや痛みの頻度が低く、術後も日常生活が可能です。また、術後に包帯などによる圧迫固定が不要でダウンタイム（※）は約1～2週間です。

### 3. メスを使わない治療

フラクショナルニードルRF（ラジオ波）技術により、皮膚に大きな損傷を与えることが少なく、術後の外科的瘢痕等がほとんど残りません。

### 4. 少ない施術回数

ほとんどの患者さんが1回施術により高い効果を期待できます。術後のダウンタイムが短いので必要に応じて再施術も可能です。

### 5. 汎用性

多汗症はもちろん、脇だけでなく陰部・乳輪の腋臭症にも施術ができます。

### 6. 特許技術

ビューホット機器、冷却板（クーリングプレート）、絶縁針（カートリッジ）は、特許技術です。

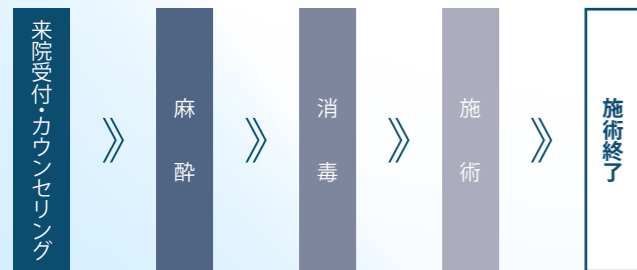


本施術時間は20～30分。メスを使わないためダウンタイム（※）も短く、ほとんどの患者さんが1回の施術により高い効果を期待できる治療法です。なお、治療効果・経過には個人差があります。

※ 日常生活に支障がない程度に回復するまでの時間

## 治療の流れ

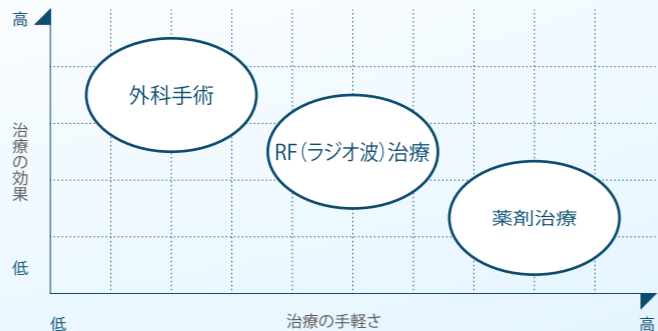
私たち研究会がこだわっているのは「低侵襲」。患者さんの負担を減らして高い効果を維持できる治療を広めることにあります。



## ワキガ・多汗症の 主な治療方法とそれぞれの特徴

ワキガ・多汗症にはさまざまな治療法があり、それぞれ特徴やメリット・デメリットがあります。

外科手術には医師の技量の差があり、すべてのエクリン腺、アポクリン腺をひとつ残さず切除することが難しいとはいえ、現在のところ、確実な治療とされています。一方で、直接的にエクリン腺やアポクリン腺を減らすのではなく、頻回治療になりますが、体にほとんど負担をかけにくい薬剤治療も行われています。RF（ラジオ波）による治療は、薬剤治療と外科手術の間に位置し、日本人医師により考案された2014年からの治療法です。



### 薬剤治療

皮膚に常在する雑菌によるニオイを防ぐために、ワキガの場合は塩化ベンザルコニウムやエタノール等の消毒薬が用いられ、多汗症の場合は塩化アルミニウムを塗布したりボツリヌストキシンの注射をすることがあります。汗腺を取り除く治療ではないため、汗の量を抑えるのが短期間にとどまってしまうますが（消毒薬は数時間ごとの塗布、ボツリヌストキシンは半年に一度を目安）、身体への負担が軽い治療です。

### 外科手術

外科手術は皮膚を切り、原因となる組織の切除等を行います。中でも、ワキガにおいては直視下で医師がアポクリン腺を除去し、その減量を図る皮下剪除法が多く行われています。その他超音波メス、掻爬・吸引法、シェーバー法などもあります。一方、多汗症では胸部の交感神経遮断術がありますが、手のひらへの適応が中心となっています。

参考  
2015形成外科診療ガイドライン 第11編 腋臭症  
原発性局所多汗症診療ガイドライン2015年改訂版

## 低侵襲H&O臨床医学研究会とは

脇の下にはエクリン腺・アポクリン腺・皮脂腺という3つの分泌腺があります。

ワキガのニオイの原因になるのはアポクリン腺から出る分泌物です。この腺は脇の下のほか性器の周辺、耳の中、乳首のまわりなど、特定の場所にだけ存在します。アポクリン腺の総数や活動の程度は生活習慣、それも食事の影響が大きいとされています。もともと菜食の食生活を長く過ごしてきた日本人は、欧米人に比べてワキガ体質の方は少ないのですが、食の欧米化とワキガが優性遺伝であることから将来的には増えていくものと思われます。

今、私たちが注目しているのはRF（Radio Frequency: ラジオ波）による治療法です。ビューホットという機器を用いますが、患者さんに合わせてドクターが治療の設定を行い、皮膚の下にある汗腺組織のみを選択的に破壊するものです。

治療は原則として1回の照射で終了し、通院も不要です。所要時間は片脇で10分という短時間であることも特徴です。治療後は圧迫固定も不要で、普段通りの生活が可能です。「忙しくて時間がとれない」「手術はちょっと・・・」という方にピッタリの方法です。

また、多汗症の悩みも深刻で「皮膚がふやけてしまう」「他人にすぐわかってしまうほど汗ジミがひどい」など様々で日常生活にも大きな弊害がありますが、薬剤治療のように何度も通院する必要がないビューホットはこの多汗症治療にも有効です。

このように、ワキガ・多汗症に有効とされているRF（ラジオ波）治療ですが、まだ歴史の短い治療法ですので、全国で実施している施設での実績を共有し、より有効で安全な治療法を確立していく必要があります。そのような意識を強く持つドクターにお声をかけて設立したのが「低侵襲H&O臨床医学研究会」です。



低侵襲 H&O 臨床医学研究会  
H & O Clinical Research Association

www.hando-cra.com

## 研究会のメンバーを対象とした ワキガ・多汗症治療に関するアンケート結果

研究会のメンバーを対象にRF（ラジオ波）によるワキガ・多汗症治療に関するアンケート調査を行いました。主な集計結果です。

